

校長室から

令和元年5月28日

修学旅行での生徒達のすばらしさ

「臨機応変に行動」して「ハプニングはあったが、トラブルはなかった」

「すばらしさ」「私たちの」修学旅行

令和元年、3学年の修学旅行が終了しました。生徒達の判断力、そして行動力が際立った3日間となりました。長い教員人生の中で、大雨等の警報が出されている中で修学旅行を引率したのは初めての事でした。昨日、保護者の皆様に「帰校のお知らせ」を配付させていただきましたが、初日の自主研修活動を大きく変更いたしました。仙台駅で、菅原学年主任から「大雨なので、東京での予定が変更になるかもしれない。」という事を予告しての出発となりました。仙台駅や新幹線の中、そして東京駅で教職員が話し合い、「生徒の命を一番に考え」できる限りの策を考えました。

その結果、約2時間30分に渡り、東京駅構内で過ごさせる事にしました。その間、早い昼食を取らせながら、計画の変更を各グループに考えさせました。私が駅の外に出てみると、雨脚が大変激しく、風で街路樹も大きく揺れているのが確認できました。他の学校の自主研修グループが大変な状態となっていて、地元の方が心配そうに声掛けしている場面も見かけました。本校の生徒達の中には、横浜・鎌倉自主研修を計画していたグループがありました。大変残念ではありましたが、断念させる事にしました。3年生の先生方は、昨年から一緒に計画を考え、生徒達が明るく活動して帰ってくる事を楽しみにしていましたので、本当に苦しい決定だったと思います。

しかし、そのような中でも生徒達は、教員の話や注意をしっかりと聞いて、2度の携帯電話での定時連絡(東京駅構内で急遽決定したものでした。)をしっかりと行ってくれたため、生徒全員の安全を把握する事が出来ました。私も生徒達から電話が入る度に安堵していました。各担当教員は、旅行業者と協力し、電話を受けるだけではなく、自主研修先で生徒達の安全をできる限り確認して声掛けしました。

横浜大栈橋に全員が遅れる事なく集合した時は、本当に安心しましたし、生徒達が日々、成長しているのだと実感でき、とても嬉しく思いました。まさしく、臨機応変という言葉通り、自分達で判断し、行動してくれた事に深く感銘を受けました。

昨日、体育館で行った解団式では、クラス代表生徒や、実行委員の生徒の発表から、とても充実して楽しかった事が話され、正直ほっとしました。実行委員長の松野さんは、先生方や業者の方への感謝の気持ちを表明してくれました。生徒達の感想を繋いでいくと、「臨機応変に行動し、ハプニングはあったが、トラブルはなく、すばらしさ、私たちの修学旅行」になったと言えるでしょう。

初日の事だけではなく、彼らが見せてくれた何気ない優しさや思いやりにも心打たれるものがありました。生徒同士の声掛け、体調が優れない生徒に示してくれた態度、そして、私達教職員に食事を運んでくれた生徒達もいました。とても感激しました。「食事を運んでくれた」事だけではなく、そのような気持ちを持っている事が、きっとこれからの人生を豊かにするものと思います。ホテルの部屋では、お世話になった感謝の気持ちをメモ用紙に綴っていたグループもありました。気持ちが育っていないと出来ない事だと思います。きっとまだまだ私達が気付いていない彼らの良さが沢山あるのだと思います。私は、この修学旅行の引率で、新しい発見や喜びが沢山あり、彼らから学ぶ事も多く、とても価値ある、そして有意義な日々を送らせていただきました。是非、このような気持ちや判断力、行動力をずっと持ち続けて、今年1年間の中学校生活を送ってほしいと思います。そして、保護者の皆様のご協力、ご配慮に改めて御礼申し上げます。